

映画「インドシナ (INDOCHINE)」

Consultant 会誌編集専門委員会



■写真1—ポニーキャニオン販売のビデオ「インドシナ」のパッケージ

1930年代の旧フランス領インドシナ(現在のベトナム)を舞台に描かれた、1992年のアカデミー外国語映画賞を受賞したフランス映画が「インドシナ (INDOCHINE)」である。カトリーヌ・ドヌーヴが主演したこの映画には原作本がある。クリスチャン・ド・モンテラ著、長島良三訳の「インドシナ」である。1992年に二見書房から刊行されたが、現在は絶版となっている。映画は忠実に原作を描いている。スケールが大きくダイナミックな映画で、2時間40分もの大作となっている。

フランス領インドシナのサイゴン(現在のホーチミン)近郊で、父とゴム園を経営するフランス人女性エリアヌ(カトリーヌ・ドヌーヴ)は、父の反対にもかかわらず絵画オークションで知り合ったフランス人将校ジャン・バチスト(ヴァンサン・ペレーズ)と愛し合うようになる。

しかし、エリアヌの養女でベトナム人のカミーユ(リン・ダン・ファン)も、町での発砲事件の際に自分を救ってくれたジャン・バチストに恋をするようになる。そんな折、ジャン・バチストはパーティの席上でエリアヌとカミーユのことで口論し叩いたことがもとで、上司にハロン湾のドラゴン島に左遷されてしまう。

1—コンチネンタルホテル

コンチネンタルホテルは豊かな人々だけが利用できるステータスシンボルとして、いくつかの場面で登場する。主人公たちがワインやお茶を飲みながら、その後の物語の布石となる会話をする場面となったのが、このホテルのカフェである。

1880年の創業以来、ベトナムで最も古いホテルとして今も存在している。オリジナルなフランス建築様式が残され



■写真2—1880年創業時の面影を残すコンチネンタルホテル



■写真3—映画に出てくる雰囲気に近いコンチネンタルホテル中庭のレストラン



■写真4—エリアヌが養女カミーユの結婚式に向かう場面で登場したフエ王宮の「午門」



■写真5—1970年に再建されたフエ王宮の「太和殿」 皇帝が座る金箔の椅子と台座がある

た建物は、現在ベトナム国営のホテルとなっている。映画に出てくる道路に面したカフェは今はないが、中庭のレストランにその雰囲気を残している。

2—フエの王宮

親どうしが決めたカミーユと婚約者との結婚式はフエの王宮で行なわれる。カミーユにとってこの結婚は、養母エリアヌからの独立である。自由となり愛するジャン・バチストに会いに行く決意を秘めて結婚式に臨む。後のベトナム独立を彷彿させる象徴としてフエの王宮が登場している。

ベトナム最後の王朝であるグエン朝(1802～1945年)の都フエの王宮は、中国の紫禁城にならって19世紀初めに建てられた。しかし、ベトナム戦争で大きなダメージを受けたため、現在王宮の建物はわずかしこ残っていない。なお王宮は1993年にベトナム初の世界遺産として登録された。

3—ハロン湾

ジャン・バチストに会いたい一心で苦難の旅にでたカミーユは、ハロン湾の奴隷市場で彼と再会する。しかし、二人が立ち去ろうとする時に事件が起きる。途中から道中を共にしたベトナム一家が処刑されたことを知り、怒ったカミーユはフランス人上官を射殺してしまう。逃げた二人は指名手配され、死を覚悟でハロン湾に船出する。ハロン湾は「呪いに背いた者(ここに足を踏み入れた者)は悲しい運命をたどり、二度と下界に戻れない」と言われる「禁断の聖域」として登場する。

ハロン湾は波によって侵食された奇岩や奇峰が海面に突出し、中国の桂林に似ていることから「海の桂林」とも呼ばれている。ベトナム屈指の景勝地で1994年に世界遺産として登録された。

二人は奇跡的にベトナム人に助けられる。カミーユに息子エティエンヌが生まれた矢先、ジャン・バチストは逮捕され、そして殺される。カミーユも逮捕投獄されるが、数年後、恩赦で釈放されエリアヌに再会。エティエンヌを任せカミーユは独立運動に身を投じる。エリアヌはゴム園を売って、唯一自分に残ったエティエンヌを連れてフランスに帰国する。

1954年7月、ベトナムの代表としてカミーユはインドシナ休戦協定調印のためジュネーヴに来ていた。エリアヌと青年となったエティエンヌも来ていたが、カミーユには会わないと決め、幕が下りる。

(文章：塚本敏行)

(参考資料)

- 1) 「インドシナ」ビデオ 発売元 ビデオチャンプ 販売会 株式会社ポニーキャニオン
- 2) 「第5回 メコン園を描く海外翻訳小説」メコンプラザホームページ (<http://www.mekong.ne.jp/books/honyakunovel/030601.htm>)
- 3) 「Saigon Times Weekly 2000.9」コンチネンタルホテル特集日本語訳 (<http://cantho.cool.ne.jp/enter/conti/conti.html>)
- 4) 「まっふるマガジン ベトナム」2005 昭文社

(写真：6、市場嘉輝 他、塚本敏行)



■写真6—ハロン湾の岩峰 浮かんでいる船は水上生活者の筏



■写真7—ベトナムの切手になっているハロン湾の奇岩や奇峰